

エコアクション21
2018年6月期
環境経営レポート

【期間：2017年7月1日～2018年6月30日】

作成：2018年8月7日

株式会社キャロットシステムズ

1. 事業活動の概要

(1) 事業所名および代表者名

株式会社キャロットシステムズ

代表取締役 西澤 勇司

(2) 所在地

〒252-0231

神奈川県相模原市中央区相模原四丁目7番10号

エス・プラザビル1階

(3) 環境管理責任者氏名および担当者連絡先

責任者：森川 真子 【環境管理責任者】

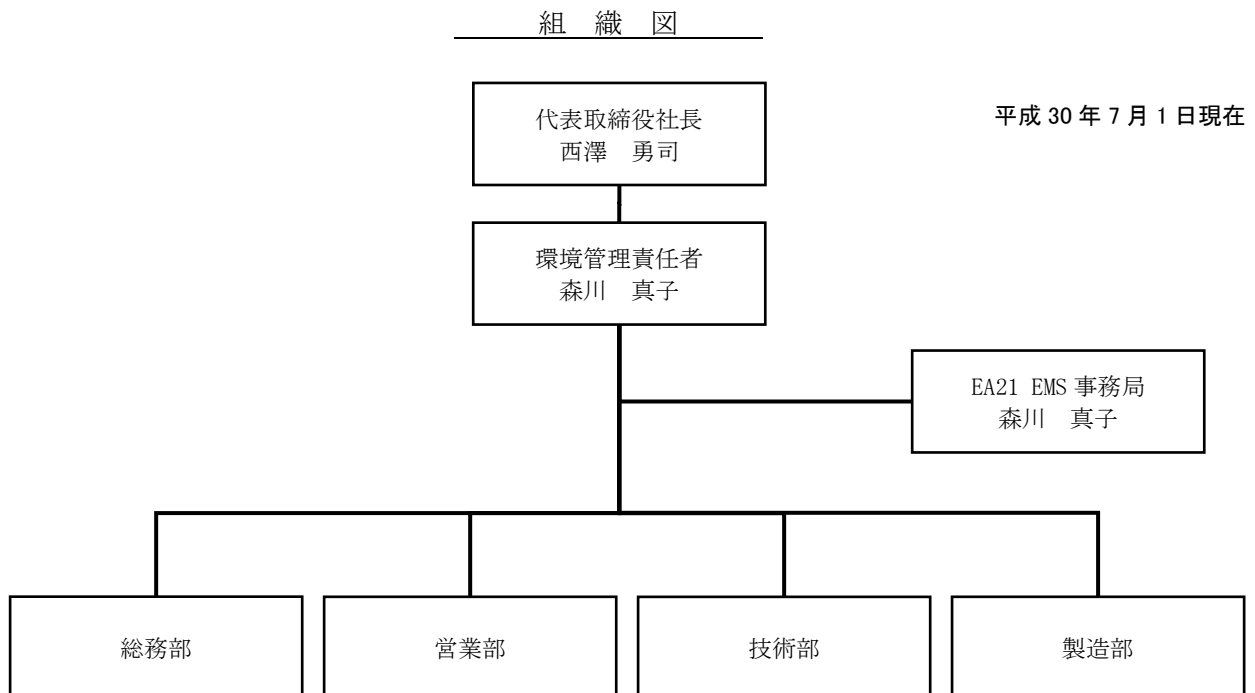
事務局：森川 真子 【EA21 EMS事務局】

連絡先：TEL 042-750-0007

FAX 042-750-0005

URL <http://www.carrotsys.co.jp>

Email info@carrotsys.co.jp



【図 1】

(4) 事業活動の内容

- ①電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の設計・製造
- ②防犯機器ならびに監視機器の設計・製造
- ③医療機器の設計・製造

(5) 事業の規模

【表1：売上高と従業員数の推移】

項目	単位	2016年6月期	2017年6月期	2018年6月期
売上高	千円	548,291	546,160	554,816
従業員数	人	26	23	26
床面積	m ²	400	348	348

※従業員数には代表者を含む、非常勤取締役を含まない。

2. 認証登録の範囲

当事業活動の全組織、全活動、全従業員

活動レポートの発行日 2018年8月7日

次回レポートの発行予定日 2019年8月頃

3. 環境経営方針

環境経営方針

当社は、電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の設計・製造、防犯機器ならびに監視機器の設計・製造、医療機器の設計・製造等の事業活動を行っております。

当社はかけがえのない地球の一市民として、我々の事業活動が環境に影響を与えることを認識した上で、“環境と企業活動の調和”を求め、環境に対して保全と汚染予防に努め、継続的改善を推進します。

1. 環境に関する法的要求事項およびその他の要求事項を順守します。
2. 当社の行う企業活動、製品・サービスが環境に与える影響に対して、以下の事項を重点に据えて環境保全、汚染予防を推進します。
 - ①環境に配慮し環境負荷低減に寄与する製品づくり
 - ②省エネルギーおよび省資源の推進
 - ③廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進
 - ④グリーン購入の推進
3. 環境負荷低減活動への参加と実践をします。
4. これらの方針を達成するために環境目標を定め、継続的改善を行います。

この環境方針は全従業員および当社内で働くすべての人に周知徹底し、環境意識の高揚に努めます。

制 定：2008年 5月17日
改定1：2012年 7月 1日
改定2：2013年 7月 1日
改定3：2015年 7月 1日
改定4：2018年 8月20日

株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇司

4. 環境経営目標

当社では、環境負荷の低減のために下記の目標を掲げて活動を行いました。

項目	2015年6月期 実績	2016年6月期 目標	2016年6月期 改善率	中長期 (2017年6月期) 目標	中長期 (2017年6月期) 改善率	中長期 (2018年6月期) 目標	中長期 (2018年6月期) 改善率
	(2014/7-2015/6)	(2015/7-2016/6)	(対2015年6月期)	(2016/7-2017/6)	(対2015年6月期)	(2017/7-2018/6)	(対2015年6月期)
①環境に配慮し環境負荷低減に寄与する製品づくり							
1 パッケージの非ラミネート化	17機種	20機種	-	20機種	-	20機種	-
2 不良率の削減	-	2.8%	-	2.7%	-	2.6%	-
②省エネルギー及び省資源の推進							
1-1 電力使用量(kwh/年)	30,595	30,442	0.5%	30,289	1.0%	30,136	1.5%
1-2 電力使用量(kwh/年・人)	1,224	1,218	0.5%	1,212	1.0%	1,205	1.5%
2-1 ガソリン使用量(l/年)	6,708	6,675	0.5%	6,641	1.0%	6,608	1.5%
2-2 ガソリン使用量(l/年・売上(億円))	1,115	1,109	0.5%	1,104	1.0%	1,098	1.5%
3-1 車の燃費管理(l/km)	15.4	15.5	0.5%	15.6	1.0%	15.6	1.5%
4-1 CO2排出量(kg/年)	31,790	31,631	0.5%	31,472	1.0%	31,313	1.5%
4-2 CO2排出量(kg/年・売上(億円))	5,283	5,257	0.5%	5,230	1.0%	5,204	1.5%
③廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進							
1 ゴミ排出量(一般ゴミ)(kg/年)	660	641	3.0%	634	4.0%	634	4.0%
④グリーン購入の促進							
1 グリーン購入	3品目	3品目	-	3品目	-	3品目	-
⑤環境負荷低減活動への参加							
1 参加活動の調査	-	参加活動を調査検討する。					
2 社員のエコ検定の合格率	75.0%	77.3%	3.0%	79.5%	6.0%	82.5%	10.0%

- ※1 CO₂排出量は、環境省 WEB サイトにて公開されている「別表1 環境への負荷の自己チェックシート」を利用し、適切な排出量係数を用いて、電力使用量、自動車に用いるガソリン使用量の排出量の総計として算出しました。但し、2017年5月より電力使用量は入居テナントと共用で変動係数による案分のため、参考値として掲示することとし目標値として管理しないものと変更しました。
- ※2 当社の入居施設は、上水道、下水道共に入居テナントと共用で人数按分されているため、水の使用に関して定量的な目標設定は出来ません。但し、節水表示をするなどして節水に努めています。
- ※3 化学物質の使用はありません。なお、お客様の指定がない限り、半田は無鉛半田を使用しています。

5. 環境経営計画

環境目標項目	主な活動実績の内容
① 環境負荷低減に寄与する製品づくり	環境負荷低減に寄与する製品づくり 1. パッケージの非ラミネート化 2. 不良率集計手法の確立
② (1) 電力使用量の削減	1. 全社員を対象にした実施計画説明と教育 2. 不在箇所の消灯励行 3. エアコン設定温度の周知と徹底 4. クールビズのガイドライン制定と実践
② (2) ガソリン使用量の削減	1. エコドライブ10ヶ条の社員教育(年1回以上) 2. 車両別ガソリン使用量の把握 3. エコカー台数及び使用率の向上
③ ゴミの軽量化	1. 3Rに関する社員教育 2. 着荷した緩衝材における「ゴミ⇒梱包資材」への転換ルールの考案 3. ダンボール素材の選別廃棄 4. 飲料及び弁当容器等生活ゴミの各自持ち帰り
④ グリーン購入	グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPNDB（グリーン購入ネットワークデータベース）掲載商品の購入割合を計画して適正な購入に努めます。
⑤ エコ検定受験	環境意識を高めて実践するために、「エコ検定」にチャレンジし、全員合格するまで受験する。
⑥ 水使用の抑制	当社の入居施設は、上水道、下水道共に入居テナント共用で人数按分となっており、定量的な目標は立てにくいですが、社内給湯室の水使用は極力控え、ステッカーを貼り節水を励行する。

6. 環境経営目標の実績

(1) 1年間の結果

環境目標項目	年度目標	年間実績 (17年7月～18年6月)	評価
①環境負荷低減に寄与する製品づくり	20機種	20機種	○
②-1-1 電力使用量の削減	30,136kWh/年	36,117kWh/年	×
②-1-2 電力使用量の削減	1,205kWh/年・人	1,389kWh/年・人	×
②-2-1 ガソリン使用量の削減	6,608ℓ/年	5,538ℓ/年	○
②-2-2 ガソリン使用量の削減	1,098ℓ/年・億円	998ℓ/年・億円	○
②-3-1 車の燃費管理	15.6km/ℓ	14.7km/ℓ	×
②-4-1 二酸化炭素の削減	31,313kg/年	29,976kg/年	○
②-4-2 二酸化炭素の削減	5,204 (kg/年・売上(億円))	5,403 (kg/年・売上(億円))	×
③ゴミの軽量化	634kg/年	389kg/年	○
④グリーン購入	3品目	3品目	○
⑤社員のエコ検定の合格率	—	66.7%	—

※購入電力の炭酸ガス排出係数 年間実績：0.474kgCO₂/kWh

7. 環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

【考察】

- (1) 環境負荷低減に寄与する製品づくりにおけるパッケージの非ラミネート化は全製品への展開が完了しました。不良率に関しては正確な情報が把握できておらず評価対象外としました。
- (2) 電力使用量は目標値としての管理対象から外れたため、参考値としての記録です。
- (3) ガソリンの使用量は目標値を達成できました。しかし平均燃費は未達成でした。通常のガソリン車を営業車両として追加導入したため平均値を下げたものと思われます。
- (4) 二酸化炭素の排出量は目標値を達成できました。しかし、売上当たりの二酸化炭素削減は達成できなかった。
- (5) 一般ごみの排出量は目標値を達成できました。

【次年度の取組み内容】

前期は事務所移転後の経過観察もあり、目標値設定が旧事務所の延長でしたが、次年度は現事務所の実情に合わせた行動計画を策定する試行期間と考えております。

- (1) 新製品の開発において、非ラミネート化はもちろん梱包状態を検討して梱包箱を最小化できるように設計し、輸送保管にかかる費用を削減しつつエネルギー消費も削減します。項目名を「非ラミネートパッケージ製品の新規導入」、目標値を2機種とする。また、不良品の集計ルールを定めて、数値評価が出来るように改善します。不良率を正しく測定できる手法と体制を構築します。
- (2) エネルギー使用量については、単位売上あたり又は従業員一人当たりの指標を導入し利用効率を評価できる指標としました。
 - (ア) 電力消費量削減では、照明のLED化を進め、安定した電力消費量の削減を行っております。空調については、サーキュレーターを導入して、使用エリアのヒートスポット及びコールドスポットを無くして空調設備の効率的な稼働を目指します。
 - (イ) 燃料消費量削減では、ハイブリット車を優先的に利用して、効率的な営業活動を心がけ営業車両の運用効率を高めます。
- (3) ゴミの軽量化では、引き続きリサイクルを進め、排出量を増やさないように努めます。
- (4) グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPND（グリーン購入ネットワークデータベース）掲載商品の適正な購入に努めます。
- (5) 全社員参加意識の継続が課題でもあり、定期的な教育、全社員エコ検定合格を目指して、環境に対する意識を高めて行きます。

8. 環境関連法規への違反および訴訟等の有無

2018年7月21日に代表者が環境関連法規への違反および訴訟等の有無の確認を行いました。

- (1) 環境関連法規について、過去3年間、現在に至るまで法律違反はございません。
- (2) 環境に関わる訴訟に関しても、過去3年間、現在に至るまでございません。

2018年7月21日
株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇 司

9. 代表者による見直し結果

車の平均燃費が目標を達成できませんでした。

現在の事務所は、旧事務所と比較すると面積は20%程度縮小し、気密及び断熱も優れた建物でありますが、ビル全体の電力量管理方法が異なるため、正確な使用量の把握が困難になりました。また、空調機が不調のまま修繕されていないため、電力使用量に影響を及ぼしている可能性もあり、早急な修繕の依頼をしております。

車の平均燃費については、追加導入した営業車（ホンダ フリード）は、積載容量が高く近隣への工事案件に使われるケースが多いので平均燃費を悪化させる要素となりました。しかし、防犯カメラシステムの事業展開において重要な役割を担っておりますので、引き続き対策を検討しながら現状に即した目標設定を行ってまいります。

2018年8月7日

株式会社キャロットシステムズ

代表取締役 西澤 勇 司